

# チャレ\*くま通信

「チャレ\*くま通信」は就労移行支援事業所チャレジョブセンター熊谷が定期的に発行する広報誌です



編集部まえがき

夏の暑さがよもや「山鳥の尾」ように長く続いてたかと思えば、ふと散歩に出れば、小さな秋が迎えてくれました。「あしびきの山鳥の尾のしだり尾の 長々し夜を ひとりかも寝む」は秋を詠んだ句。長い人生、たとえ小さくても心ひかれるものが、誰にでも見えてくるはず。そう思えばこそ、外に出られるものですね。

## 就職・検定情報

▽今月は1名の方が就職されました。電子機器メーカーの製造職です。おめでとうございませう。通所を始めてから、はやばやと就職活動を開始され見事、難関を突破されました。訓練中は手先の器用さを活かし、制作作業に打ち込まれていました。丁寧な言葉づかいも印象に残っています。

▽資格試験ではMOS（WORD）、同（EXCEL）のスペシャリストに、それぞれ1名の方が合格されました。おめでとうございませう。実はお二方とも、就業中の卒業生。卒業後は原則有料での受験となりますが、当センターで受験できるので手続きも簡単で、気軽に挑戦できたようです。勉強する時間をうまく作りながら見事、合格を手に入れました。



## それぞれのやり方と、覚悟 卒業生インタビュー【みなとさん】

この広報誌で長きにわたり活躍したコラムライター・みなとさん。卒業を迎えた今、率直な心境をインタビューしました。ライター活動の裏側や、みなとさんらしい覚悟にも触れることができました。これからの旅路に、幸あれ。

やはり広報誌制作セミナーの活動が印象に残っています。ライターの経験を活かすことができて、うれしかったですね。文章を読んでいただく機会ができ、本当にありがとうございました。



いろいろな道がある。それぞれのやり方。進み方がある。

### ■建前と本音

Q、大変だったことは何ですか。それをどう乗り越えましたか。

Q、どうすれば文章をうまく書けるようになりますか。

在宅勤務でシナリオライターをしていました。人と関わるのが嫌で在宅を選んだのですが、10年にもなると逆に、人と関わりたと思うようになりました。そんなときにここを知って、ここから人との関わりを学びながら職探しができると思ったんです。

「間違えてもいい」というテーマのコラムのとき、間違いの人生に生まれてきたかと思っていた私はまだ、ある歌詞のように「間違いか正解かだなんてどうでもよかった」とは思えませんでした。どう書くべきか分からず、苦肉の策で締めましたね。最初は、就労移行に通いたくなることを書かなくちゃいけないと感じていました。素直に書いていいのかもしれないと思ってからは、楽しく書けるようになりました。

文章の書き方の本をひたすら読んだり、小説の書き方講座とかに通ったりしました。習ったことを参考にしたが書いてみると、とにかく書き続けて、なんとかそれなりの文を書けるようになりました。試行錯誤して書き続けていくことが大事だと思います。

Q、文章を書き続けるのは、なぜですか。

Q、小説を書くことが多いようですが、設定とかを考えたりののは、大変ではないですか。

設定をほとんど作りこんで書く方もいれば、あまり作りこまないで書く方もいますね。私の場合、

書くことしかできないからです。私は不器用ですが、そんな自分が唯一、普通かそれ以上にできると思えるのが文章を書くことなんです。書いていないと私は何もできない人になってしまうという怖さがあります。だから、書き続けています。

広報誌制作の訓練でライター経験を活かす

